

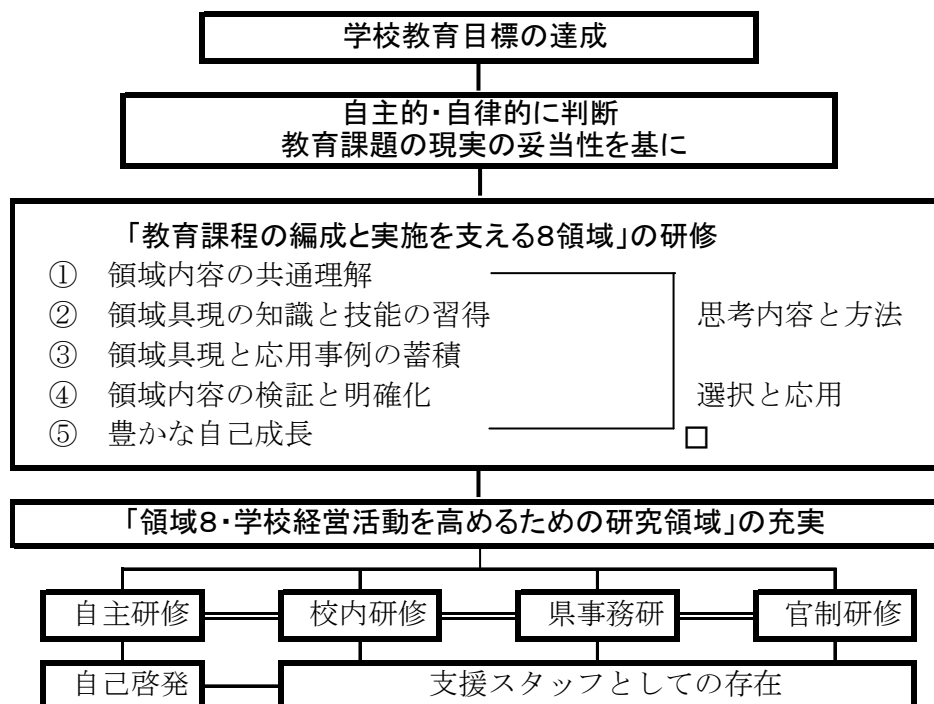
に高め、そして、その技能を基に、学校における課題解決を図り、それをもって学校事務職員の専門性を確立することに繋げていくものである。また、その過程は、「動機づけ—自主づけ—勇気づけ」サイクルから自己啓発を図り、PDSサイクルから研修内容を問い直し展開して行かなければならない。

第2節 研修の推進

1 研修推進の構造

学校事務職員の研修は、学校経営において学校事務の支援機能を技術的に対応させ、教育課題の解決に向け機能するものでなければならない。また、専門性を確立するというためだけの研修であってはならない。つまり、研修の推進は、各学校における事務実践において、その思考段階で支持でき得る内容と方法、および、選択段階で応用できる事例の確保が必要であり、それを支援するスタッフの存在が重要となる。その構造は、次のようになり、各研修場面で継続的に進められる。

図14 「研修の推進の構造図」



2 研修の推進の単位

(1) 自主研修

研修は、そのことがらの価値の認識に基づき、自主的・自律的に行い、自己成長を促すことから成立する。つまり、「教育課程の編成と実施を支える8領域」の研修の推進は、個人によって始まり、個人に帰るのである。したがって、自主研修が研修の根幹をなすものとしてとらえたい。

主な研修内容

- ① 学校事務職員の職務の確立について（報告）の理解のための研修
- ② 領域内容の学習と具現事例の応用研究
- ③ 領域8・学校経営活動を高めるための研究領域の充実
- ④ 自己啓発による豊かな自己成長

(2) 校内研修

校内における研修は、校内の教育課題の解決に向け組織・編成される。教育課題に対応する解決方法に唯一絶対なものはない。したがって、個性的存在である子どもとその学校に置かれている人や環境等の条件によってさまざまな方法を考える。各学校における学校事務実践は、個々の教育実践の現実の妥当性と学校事務の支援機能を技術的に対応させ、教員と共にその役割を果たすことにある。そこに校内研修の目的がある。

主な研修内容

- ① 学校経営における領域内容の位置づけの研修
- ② 学校事務の支援機能としての知識と技能の習得
- ③ 領域8・学校経営活動を高めるための研究領域の充実

(3) 県事務研による研修

研究団体としての研修は、個人研修・校内研修を支援するスタッフとしての立場を確保しながら、「教育課程の編成と実施を支える8領域」の研究実践を組織的に還流させ推進させるものである。したがって、研究の基調となるものや分科会の設置については、領域との関連を明らかにしながら編成される必要がある。

主な研修内容

- ① 学校事務職員の職務確立について（答申）の組織的学習
- ② 領域内容の会員相互の共通理解
- ③ 領域の具現化へ向けた知識と技能の習得
- ④ 領域の具現実践の交流と具現事例の還流研修
- ⑤ 領域内容の検証と明確化
- ⑥ 領域の具現化へ向けた体系的研修のあり方の研究

(4) 官制研修

任命権者等による研修は、地方公務員法の規定からも定期的に行われている。しかし、一般行政の職員と比較し、体系的に実施されているとはいえない。ある意味では、自由に育ってきたともいえる。「教育課程の編成と実施を支える8領域」は、学校経営の基幹的部分をなすものであるから、官制の研修においても、その事務実践に向けたものであり、制度的な知識を深め、モラルの向上を図れるようなものであってほしい。今後の体系化に期待したい。